

The Gallery Voice

発行/国郵沖縄〒900 那覇市松崎2-2-3 ☎(0988)34-6711 / 60/ART COMMUNICATION PAPER/1993.7/1

経済立県から文化立県へ

芸術家のより積極性を求めて

㈱リウエン商事社長 宮城義明

「琉球の風」が幕を下ろした。謝名親方や啓山が、琉球のアイデンティティーを強烈に訴えて非業の死を遂げ、自立経済の旗を高く掲げて啓泰は大海原へと旅立って行った。

21世紀が視界には入った今、県民に対し「琉球の課題」を明確に提示した見事なエンディングである。春の訪れがもうすぐという頃「沖縄の将来をカウントに入れて、緊張感の余韻を残してランディングしたい」と深刻な顔で泡盛の杯を重ねていた高良倉吉氏に大喝采を送りたい。

3次振計は1次と2次の二本柱、「経済の自立」と「格差の是正」を引き継ぎ、今回は訴謂「沖縄のアイデンティティー」を加えた三本柱となっている。賢明な読者は既に気付かれたと思うが、「琉球の風」と「3次振計」を比べて見ると、前者にかけているのは「格差是正」である。それが意図されたものか否かは知る由もないが、この点にかねてから疑問を禁じ得なかった私は、カーテンコールに応えた幕上げを、大袈裟に「21世紀への沖縄の幕明け」と身震いする程の感動で拍手を送りたい。

本土との格差は色々であろうが、主として指摘される所得格差については、たとえ、最下位であろうとこれを是正すべきだと声高に叫ぶことには大反対である。全国の平均より上位にある県は十五県もないし、沖縄の県民所得は、

世界のベストテンに間違いなく入っている。東京等の大都市が極端に高過ぎるのであって、沖縄は日本でビリでも世界では大金持ちに入るのである。乞食はイヤだから経済の自立は必要だが、これ以上の経済指向は墓穴を掘ることになりかねないのではないだろうか。

戦後間もなく五十年代に始まった高度成長は、所得倍増策や列島改造論に幸運も手伝って奇跡の大復興どころか、歴史上類例を見ない大発展を達成し、「体感出来る豊かさ」を錦の御旗に掲げつつも経済大国への大行進は止まる所を知らない。吾国が目指した経済政策の基本は「中産階級の中を厚くする」ことであり、それは見事に成功し、今日の国は一億総中の「上流社会」と言われている。この原動力になったのが政策当局の強烈な支援策と「一億総参加によるエコノミックアニマルと揶揄された企業戦士」であった。そして都市と地方、工業と農業、文化と文明のアンバランス等多くの歪みを残した。高齢化と情報の高度高密度化する21世紀でこの上流社会を維持する為には、一億総参加の猛烈勤労を余儀なくされる。残るのは、ストレスと目的を失った虚無感であろう。

科学文明は豊かな経済を恵んだが、過度の依存は文化とのアンバランスを持たらした。人々は戸惑い、心の穏やかさを失い、利他と共生の心を忘れ地域社会からの孤立を自ら陥れようとしている。

復帰から二十年、日本化の途をツツ走って来て、ここで吾々は自らの足元を見つめ直してはどうだろうか。ウマンチュ・ムルチョーデーの横型社会やウチナーチルダイこそ縦型の日本社会への手本にはならないだろうか。

日本経済研究所の「企業の社会貢献活動」に関する報告書は、吾国の現状と課題を提示している。

「企業フィランソロビー」や「良き企業市民」は利潤を目的としない民間による自発的、積極的な社会活動と定義し、企業戦略との区別に営利を目的としたもの、受益者が本業の関係者に特定されていないか等の四項目を挙げている。紙面が限られており詳述出来ないが、誤解を恐れず敢えて言えば、メセナに名を借りたコンサート等の売名行為は、良い音を与えてくれる上で無いよりは良いだろうが、どうも引っかけたスッキリしない。又、メセナは仏語の「文化擁護」であり、芸術文化支援活動であって音楽だけではない。90年に経団連が「1%クラブ」を設立し、経常利益の1%を毎年寄付する提案をしたところ、1年半で180社近い企業が入会した。音楽や絵画は、芸術家のものとしてよりも企業戦士の為、とりわけ21世紀社会では一般社会人のものであるのだ。沖縄でも、企業や個人も自らの豊かな心を得る為に自発的な姿勢が求められようが、当事者、即ち芸術家自身や沖美連・芸音協が先ずフィランソロビーやメセナの意義や目的を理解し、訴求すべき時ではないだろうか。サラリーマンでも年俸の1%で絵を買うことは、さ程難しいことではなからう。(おぎ よしあき)

國場組グループ

國 和 會

会 長 國 場 幸 治

* 額縁の専門店 *

合資 前田額装商会

〒900 那覇市松尾2-7-29 ☎(098)867-4811 FAX(098)861-0367

インタビュー

アルゼンチンの

風景、匂い、音楽...

彫家 ゴヤ・フリオ・エドワルド

アルゼンチンを離れて8年。数々のコンペで入賞するなど活躍が目覚ましい彫刻家のゴヤ・フリオさん。今回は彼のアトリエを訪ねて、作家生活の周辺を語ってもらった。

GV：第1回フジ・サンケイビエンナーレ展入選おめでとうございます。タイトルは「大地の女神」ということですが、作品のことについて聞かせて頂けませんか。
フリオ：キッチュア語（昔からのインディオの言葉）では「パッチャマーマー」と言って、大地を

つかさどる神様なんです。今回の作品が直接そのイメージから生まれてきたものではないのですが、制作をしていく中でテーマが人物とか、女性というイメージがあってでき上がったのが「大地の女神」なんです。

私は沖縄に来て8年になるので、最初は東洋の影響を受けているんじゃないかと思っていたんですが、制作をしていく中で、イメージとしてふくらんでくるのが、自分の生れ故郷であるアルゼンチンなんです。それはアルゼンチンにいたときの記憶だけじゃなくて、音楽とかは、フォルクローレ（アルゼンチンの民謡）は肌に

よみがえって感じがするし、文学とかにしてもそうなんです。

“自分の源はアルゼンチンなんだ”という意識がとて強くなってきました。とくにここ2、3年は強く意識するようになりました。

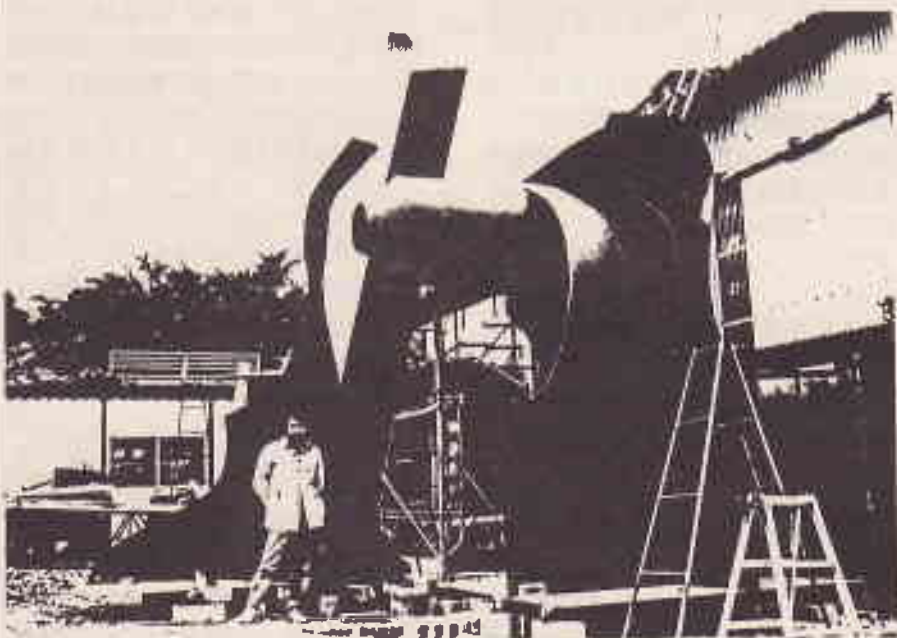
なぜ、沖縄なのか？

GV：それはアルゼンチンを離れてみて感じたことなんですね。生れ故郷のアルゼンチンを離れたところで制作活動をはじめた理由を聞かせてください。その制作する場所が沖縄でなければならなかった理由もあるのですか。

フリオ：特別きっかけがあるわけではないんです。両親のふるさとが沖縄だったということで来たんです。だから、はじめは制作活動をするつもりはなかったんです。でも、沖縄でさまざまな人に出会ってここでならやれるんじゃないかと思ってはじめたんです。それに日本という国が美術に対して力を入れている感じがしたし、彫刻を使った街作りが盛んになりそうだったということもありますね。

GV：彫刻を始めるきっかけについて聞かせて下さい。

フリオ：18才の時、デッサンの専門学校に通っていて、その先生が美術学校にいったらどうかと



「大地の女神」とフリオさん

CREATIVE OFFICE

SHINJO Vib CREATION

プランニング(企画)

S.V.C

マネージング(経営)

〒900 那覇市牧志2-13-15・501 ☎(098)867-9999



絵画(油彩・水彩・版画)の専門店

画廊 沖縄

〒900 沖縄県那覇市泉崎2-2-3 ☎(098)34-6760

進められて受験したんです。描くことは嫌いじゃなかったし、4年間は絵画、版画、彫刻とかをやってみて、絵よりも針金や粘土などいろいろな素材で形を作っていくことにすごく魅力を感じて彫刻を選んだわけです。

GV：彫刻に使われている素材にはいろいろとありますが、最近ではよく金属を使っている感じがしますね。

フリオ：私の兄が趣味で溶接をしていて、廃材を集めてテーブルを使ったりして、私もよくいろんな物を作って楽しんでいました。最近の制作で金属を使うのは、その影響もあると思います。

GV：表現をするために金属を使うわけですが、その中に音楽とかリズムを取り入れた作品が多いんですが、素材との関連性はあるんですか。

フリオ：音楽・リズム・動きは全部関連していると思うんです。音楽があるからリズムがあるし、リズムがあると当然動きが入ってくるわけです。それは私の中ではひとつのものなんです。アルゼンチンでは、音楽を聴くと自然に体が動き出すリズム感があるんです。それが素材と関係するかどうかはわからないですけど、私のデッサンはほとんどが線の表現なんです。その方が手の動きもいいし、例えば、針金を使って制作することは、デッサンのときと同じように表現することなんです。それは空間にデッサンしている感じなんです。だから、2次元の紙の上で表現するよりも、私の場合は空間に表現することの方がやりやすいんです。

GV：金属というイメージが固

くて動きやリズムと結びつきにくい感じがしたんですが、針金等を使うことによって、うまく動きやリズムを取り入れることができるんですね。

フリオ：曲線と直線をうまく組み合わせることによってリズム感が



制作中のフリオさん

みえてくるんです。制作をしている場合、私はデッサンをベースにして作っていくんで、表現していきなかに偶然にできた線がおもしろいからといって形にしていくのではないんです。だから私のデッサンを見れば作品もみえてきます。

公共事業について

GV：最近は公共事業の仕事が多く手がけていますが、やっていますか。

フリオ：沖縄で活動をしていて公共事業の仕事が入ってくるのはとてもうれしいことだと思っています。ほとんどが建物の壁面を利用

したレリーフで、立体作品の依頼は少ないです。でも、普通ならペンキを塗ったり、コンクリートで仕上げられるところに自分の作品があるというのはうれしいことです。

GV：公共事業をする場合は自分の思うような作品を作ることできますか。

フリオ：多少の制約はあります。例えば、レリーフを作る場合その建物を利用している人達の雰囲気にあったものを作るとか、相手のアイデアも取り入れながら作っていくわけです。だから、それぞれに表現の仕方が違っていても、作者は私だということに代わりはないわけです。

それから、経済的な部分での支えになっているところはあります。作家が自由に制作活動ができるというのは、ある程度の収入がなければやっていけないことですから、制作することとバランスをとりながらやっています。

GV：公共事業の仕事の他に、県内企業からの話はあるんですか。

フリオ：企業からの話はありましたが、予算の段階でだめになってしまってまだ企業との仕事はやったことがないんです。

GV：話は変わるんですが、フリオさんは野外彫刻と室内における彫刻とどちらが表現しやすいですか。

フリオ：どちらかといえば野外彫刻の方が表現しやすいです。今回の作品（フジサンケイビエンナーレ展）は高さが5メートルなんですけれども、どんどん大きな作品に挑戦できるおもしろさがあると思



ひとにいつも新しく—生活共感企業

りゅうせき

本社：沖縄県浦添市西洲2-2-3 〒901-21
TEL 098-875-5000 FAX 098-875-0270



首里の銘酒(本場泡盛)瑞泉

瑞泉酒造株式会社

沖縄県那覇市首里峰山町1-35 TEL(098)884-1968

うんです。

社会とのかかわり

GV：制作活動をしていて表現していく中での社会とのかかわり合について聞かせて下さい。

フリオ：とてもこだわっている時期はありました。それは、アルゼンチンが軍事政権とか政治問題で揺れているときです。学生時代からの行動を起こして軍事反対というのをどう表現するか、音楽をしている人だったら音で表現するだろうし、文学をしている人だったら書くことで表現できるわけで

してできていないんじゃないかと思うんです。

好きな作家は

GV：89年の画廊沖縄での個展でマチスを立体化した作品がありました。曲線とか音楽とかマチスの影響があるのでしょうか。また最近の作品はとても力強く人物もかなりどっしりとしてきているように感じるんですが、

フリオ：マチスはとても好きな作家です。マチスがデッサンしたものにひかれるし、彼の作品からは音楽を感じるんです。マチスを立

色がついているんですが、これがひとつのきっかけというかスタートだと思います。

面を意識すること

GV：線を中心にした表現だったのが、面を中心にした表現になってきているということですか。その点が力強さがまったということでしょうか。

フリオ：最近ではマスがはっきりみえてきて、フォルムもしっかりしてきたしボリューム感もでてきたと思います。

素材に関しては鉄そのものが重量感もあるし、針金よりも鉄板が力強く感じるという部分もあると思うんです。線の持つ柔らかさと、面の持つ柔らかさがひとつのものになってしっかりとした形が生まれてくんです。

実際はみえない面でも、面としてみることでつながりを持っていくことができるわけです。線で表現することから面で表現することについて話しましたが、つまり線の時は色がおけなかったのが面になったことで色がおけるようになったということです。

これからの抱負は

GV：これからの抱負を聞かせてください。

フリオ：さっきも話したように制作をする時に、自分が生れ故郷のアルゼンチンに戻った感じがするというのを言いましたが、どれだけできているのかということなんです。私が確かめたいのは、アルゼンチンの風景、匂い、音楽などがどんなものだったのかということなんです。



34・フリオ彫刻展 (GALLERY WORK- II)

す。私の場合はものを作ることで社会とのかかわりを表現するわけですが、デッサンの段階でとどまってしまって、実際作品にしたことはないです。

私の作品は人間がテーマなんです。人間というのは政治関係とか、環境問題だとか、愛情とかいろいろな意味でのテーマ性が含まれていると思うんです。あと作品にした場合にセクシーさとか官能的な部分が見えてこないし作品と

体化した作品は、画廊沖縄での個展のときはじめて発表しました。彼の作品から音を感じ、立体化して動きを表現していくことで、自分のものにしていきたいと強く感じたからです。また、もうひとつのきっかけとして私は自分の作品の中に色を入れることが、なかなか自由にできなかったんです。でも、マチスとの出会いで作品に色を入れることができるようになったわけです。だから今回の作品も

地元のビールが断然うまい。
最も新鮮

オリオンビール

RISTORANTE
 松尾亭

〒900 那覇市松尾1-5-7 (那覇グランドホテル)
予約/TEL (0988) 62-6161
年中無休

アルゼンチンを離れて、8年になるんでもう一度自分の目で、これまで制作してきた作品の中に込めたアルゼンチンへの思いを確かめてみたいんです。アルゼンチンそのものはそんなに変わってはいないかもしれないけれど、作家としての視線で見た時どうかということなんです。そうすることによって自分自身の成長も確かめることができるし、これまで以上に作品に込めるイメージもふくらんでくる感じがするからです。

沖縄という場所で

GV：沖縄での住み心地はどうですか。

フリオ：沖縄という場所が合うのか、私が沖縄に合わせているのかよくわからないけれど、とても楽しく過ごしています。(笑)

GV：沖縄で結婚されたんですか。

フリオ：沖縄に来て結婚をしたのが今、ここにいきりかかっているのでしょうか。一人だったらここにはいなかったと思います。結婚したことや子供ができたことで、簡単にこの場所を動けなくなったとか、それは自由がなくなるということではないんですけれど、住んでいくことで、根っこができてきたということでしょうか。結果的にはいまで良かったと思っていますよ。

GV：ということはご家族もフリオさんが創作活動をしていくことに協力してくれるわけですね。

フリオ：もちろんですよ。一応夫婦として協力していかなければならないでしょう。それは作家であろうが、サラリーマンであろうが同じことだと思っています。

制作をすることを私は仕事だと思ってやっていますが、表現していくということはある程度の自由な時間が必要になってくるわけです。だからといって、私が作家で特別あつかいをされているというわけではないと思います。でも制作できること、それを生かせる環境であることに感謝しています。GV：今のような状態で制作できてバランスがとれているんですね。

フリオ：そうですね。公募展に入選したり、悪くはないと思っています。でもこの状態に満足してい



【プロフィール】

- ゴヤ・フリオ・エドワルド
- 1953 アルゼンチン ナスアイス 生誕
- 1979 グループ展 (アルゼンチン)
- 1980 グループ展 (アルゼンチン)
- 1983 ナスアイス国立芸術学校大学院卒業
- グループ展 (アルゼンチン)
- 3人展 (アルゼンチン)
- 1985 来沖 浦添市に在住
- 1988 個展 (画廊沖縄) 第2回 叻大賞展 美ヶ原高原美術館賞
- 1989 個展 (画廊沖縄)
- 1990 グループ展 (沖縄) 浦添市民会館楽屋 彫刻設置 浦添市内秋トパーク 彫刻設置・他
- 1991 個展 (画廊沖縄)

るわけではなくて、次に進むためのステップとして考えています。どれだけ自分自身のいろいろな面を出したとしても物足りないと思うし、不満でいっぱいなんです。

作家として一番いけないことは自分で自分をごまかすことだと思うんです。作品が他の人の目から見て良いと評価されてそれに満足したり、自分の作品を最高だと感じてしまったら表現者としてはおしまいだし、次から作品を作る必要はないと思います。

GV：常に表現することに対してハングリーというか、満足してはいけないというか、ぎりぎりのところに身を置きながら制作をしているんですね。

フリオ：そうなんです。今の自分自身の状態がいくら良くても、もっとほかに何かあるんじゃないかってどんどん先に進んでいく自分があるんです。一歩進んだらもう次の足が出ていて、同じところに立ち止まることができないのだと思います。だから、おそらく自分の性格としてはいつまでも何かを追い求めていると思いますよ。

GV：今日はどうもありがとうございました。これからの活躍に期待しています。

※「フジ・サンケイビエンナーレ展」とは2年に一度行われる国際コンペで今年が第1回目の開催。今回は、1,109点、47ヶ国からの応募があり、25点が入選した。(賞金500万円)更に5点の招待作家を加え、30点の中からグランプリ賞を競う。なお、グランプリ賞には1,200万円の賞金が与えられる。入選した作品及び招待作家の作品合計30点は美ヶ原高原美術館で永久保存、展示される。

Adlib 広告制作事務所
アドリヴ
〒901-21 浦添市字勢理客527 ☎0988(77)6535

絵画・刊行用品・陶芸用小物・電動加・額縁制作

CULTURE PLAZA
株式会社 **みつや書店**
〒902 沖縄県那覇市壺屋1-1-3 ☎(0988)63-1650代

OFT

オークスフェスティバルシアター

7月スケジュール

《映画》

6/28~7/4 ◆桑の葉

7/ 5~ 8 ◆具志堅剛

(たたかう兎)

12~18 ◆ボンヌフの恋人

19~25 ◆ゆきゆきて神軍

26~29 ◆灰とダイヤモンド

《バラエティー》

7/9 ◆ベニショウガ・ライブ

10 ◆魔術師『ミルゲン』

30 ◆DJディスコ大会

※詳しい内容は下記の連絡先まで
フェスティバルビル6F
☎(098)868-9894

ギャラリーマン

美術館はいつできるか!

かつて沖縄の美術家たちは「県立美術館を一日も早く建設してほしい」として署名運動を起こした。沖展や県展の会場入口にはノートが準備され、呼びかけをする美術関係者の姿があった。その後、どういう形で何年続いたのか確かなことはよく知らないが、いつの日か消えていった(?)後で知ったことだが署名簿は美術家たちによって県に提出され、美術館建設を訴えたという。しかし、具体的な回答は得られなかったようだ。

当時の沖展の会場は神原中学や那覇商業高校の教室が展示会場に使用され、美術展を行う場として決して満足の行くものではなかった。

ちょうどその頃は日本各地で公

立美術館の建設ブーム。経済の高度成長ピーク期と重なり、都道府県の80%近くが公立美術館を持つことになった時期である。県内の美術家たちは慌ただしい動きを見て、よほど羨ましく思ったにちがいない。

あれから10年が過ぎたが、いまだに美術館建設へ向けて県が動き出す様子はないのは気になる所。

一昨年(2007)の11月琉球新報は「今なぜ美術館か」を22回シリーズで追っている。美術関係の一人として大変すばらしい企画だったと今にして思う。あの署名運動があった頃、このような新聞社の企画ができていたら、美術館建設を望んでいた美術家をはじめ、人々の期待に応えたかも知れない。そのシリーズで記者は、大田知事の文化行政の腹の内を聞き出している。3次振計で建設を計画されているようだが、本当に建つだろうか?と不安な中にも大きな期待をしている。

10年先の話で、何があるか分らん世紀末(?)建設にむけての美術品の収集は始まっているのだろうか? どのような美術館を作るのだろうか? 学芸員や作品購入の予算も計上されているのだろうか?

「器は出来たが中に入れるものが…」とぼやかれないように作品収集を急ぐべきではないか。

(上)

ゴジラの出現

私が三才の頃、映画「ゴジラ」を見た。ゴジラが山から登場するシーンで泣き出したのを鮮烈に覚えており、今でも時々夢に出てくる。現在また「ジュラシック・パ

ーク」の恐竜が人気を博しているが、これは敗戦国の日本が懸命に国を復興して大きくなろうとしていた高度経済成長時代の象徴としてゴジラが出てきたのと同様に、今回の恐竜ブームも低迷している経済を大きくしようとする、人類共通の心理的なものが働いているように思える。反面、ゴジラも恐竜も人間のおごりによって生まれたものだが、世の中がすべて自己中心的に動くと、圧倒的な権威を象徴した巨大生物が人類を戒めるというメッセージが込められている。

ところで、日本の美術界はまさにこの巨大生物(バブル)を創り出し、みずから大きな痛手を受けたのだ。これを打開するには、ヒーローの出現を待たねばならない。私たち画廊でも県内作家の中にならざる信じている。ゴジラは来年ハリウッドへ上陸する。

私たち画廊もヒーローと共に沖縄の枠を越え、本土に上陸し、アジア近隣諸国へと進出していきたいものだ。(長嶺 豊)

編集デスク

17号を編集している間に梅雨も明けてしまった。今回のG・Vインタビューは彫刻家のゴヤ・フリオさんに作家の周辺について語ってもらった。アルゼンチンを離れることによって記憶の中にしかない故郷の風景、匂い、音楽が今回の作品「大地の女神」の中に強く込められているように感じた。

常に新しいイメージを追い求めているフリオさん。次はどのような形で追ってくるのだろうか。11月にはギャラリー・ワークIIで個展予定。(当間)

GALLERY WORK-II
2-2-4 IZUMIZAKI NAHA
OKINAWA JAPAN 〒900
Phone 098(855)7933

高感度の名画とライブ

オークスフェスティバルシアター
【国際通りフェスティバルビル6F】